

第6学年1組 国語科学習指導案

日 時：令和11月6日（月）4校時

場 所：浜田市立松原小学校 6年1組教室

指導者： 教 諭

- 1 単元名 平和な世の中のために自分たちができること
- 2 教材名 世界に目を向けて意見文を書こう 東京書籍6年
- 3 学 級 松原小学校 6年1組 17名

4 単元づくりの構想

本単元で付けたい力	
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解する力。 ② 事実や感想、意見など区別し、文章構成を考える力。	
情報活用能力指導の観点	教材の特質
○情報の収集 e 課題に応じて課題解決に役立つか判断し、資料や情報を集める ○情報と情報との関係 l 複数の資料の中から課題解決に必要なものを選ぶ ○考えの形成 m 事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。	本単元は、「説得力のある意見文を書く」というねらいで設定されている。説得力のある文章を書くためには、情報と情報との関係についてよく整理し、構成や展開を工夫する必要がある。教科書に例示されている「フェアトレードについての意見文」は、「序論・本論・結論」の順で書かれており、基本的な構成を確認することができる。また、構成メモの段階で図式を用いており、情報を整理しやすいと考える。図式や思考ツールなどを活用しながら、原因や結果などが混同しないように、丁寧に指導をする必要がある。
本単元に関わる子どもの実態	
省略	

5 単元の目標

- (1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 【知識及び技能】(2) ア
- (2) 筋道の通った文章になるよう、文章全体の構成や展開を考え、目的や意図に応じて事実と感想、意見を区別して書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】C (1) ア、ウ
- (3) 説得力のある文章を書くための工夫を進んで考え、事実と自分の意見を区別して分かりやすく書こうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

- 第一次** 学習のねらいや進め方を確認し、教科書の教材を使って基本的な構成などを理解する。
- 第二次** 「平和な未来のために私たちができること」
- ・情報と情報との関係を確認しながら構成メモを作る。
 - ・構成を工夫しながら意見文を書く。

7 本時の指導（6／8時間目）

（1）本時のねらい

自分の意見を伝えるために情報を整理し、筋道の通った文章になるように構成メモを書くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】B（1）イ・ウ

（2）本時の展開

学習活動	・教師の支援	【評 価】
1 本時のめあての確認	・本時のめあてと学習の進め方を確認する。	
友達が「なるほど」と納得するような本論を考えよう。		
2 構成メモの書き方を確認する。	・教科書で練習した構成メモの書き方を振り返る。 →序論・本論・結論の順に書く。（本時では本論のみ書く。） →「だから」「そして」など、情報と情報を繋げる言葉を使う。 →資料を使う場合は、どの資料を使ったのかを書く。	
3 情報や意見を矢印で繋ぎ、構成メモを作る。	・図式化が難しい児童には、穴埋め式のワークシートを渡して、必要な情報を書き込めるようにする。	
4 ペアで伝え合いをする。	・構成メモを見ながら、文章の流れをペアに話す。ペアは、話す順序や情報の繋がりに気を付けながら聞き、アドバイスをする。	
5 ペアのアドバイスをもとに、本論の展開を考える。	<p>【思考・判断・表現①】観察・ワークシート</p> <p>・矢印や情報同士を繋げる言葉を使って、本論の構成を考える。また、筋道が通った構成になるよう工夫している。</p>	
6. 学習を振り返る。	・学習を振り返り、本時の学びを実感させたり、次時の課題を確認したりして学習のまとめとする。	

8 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・本論を2つ以上の段落で書けるような構成にしている。 ・原因や結果などの関係に注意し、筋道の通った文章になるよう構成メモを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・序論と結論との繋がりを意識して、本論の構成を考えている。 ・原因や結果などの関係に注意しながら構成メモを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成メモの図式化が難しい児童には、マスに言葉を埋めるワークシートを準備する。 ・「もし」「だから」「例えば」などの言葉と矢印を使って、情報同士の関係を分かりやすくする。

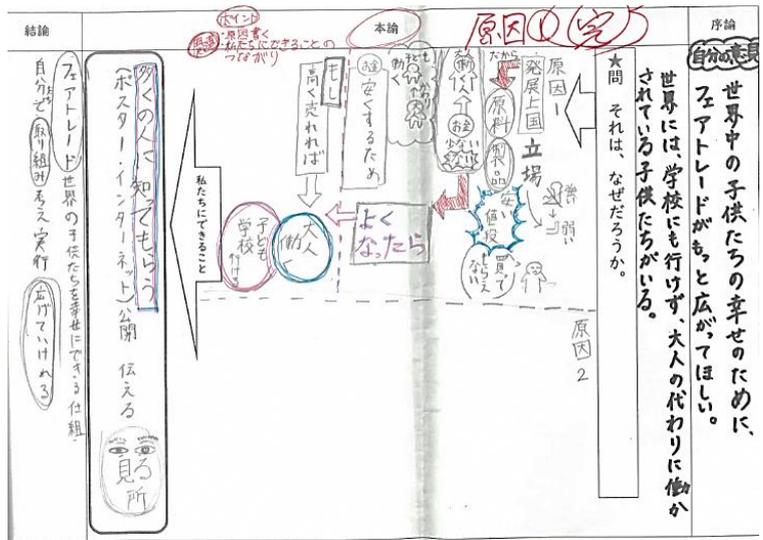
9 考察（成果・課題）

図式化の活用

本時では、意見文を書くための構成メモを作成した。人に伝わりやすい意見文を書くためには、使用する情報を取捨選択し、情報同士の間を整理しながら構成をする必要がある。今回は、そこに要約学習で練習している図式化を取り入れた。

図式化では、大切な言葉同士を矢印や言葉で繋ぎ、関連付けたり、絵を描いて必要な情報を補ったりする。そのため、言葉のみで書いた構成メモと比べると、情報同士の関係性が分かりやすいという良さがあった。また、大事な言葉を上手に見つけられる児童は、事実と意見が混同しないように図式化をすることができた。

一方で、大事な言葉を見つけることが難しい児童にとって図式化はレベルが高く、一人で構成メモを完成させることは難しかった。普段の要約タイムでは、情報が分かりやすくまとめられた文章から大事な言葉を見つけているが、今回は自分の書いた情報カードから見つけなければならなかった。そのため、情報を整理したり、大事な言葉を見つけたりする難易度が上がっていたのだと考える。図式化をする時に必要な「要約の力」は個人差が大きいので、差を埋めるための手立てや支援を行うことが必要である。



教科書の文章を図式化

教科書のフェアトレードの文章を活用して、構成メモを作る練習をした。事実と意見の違いや情報と情報のつながり、どのような順番で情報を示すと伝わりやすいのか等、図式化することで理解しやすくなった。「原因と結果など情報と情報との関係について理解している。」という目標を達成するために重要な手立てであったと考える。また、自分の構成メモを書く時に参考になっている姿も見られたため、構成の手本としても活用することができた。



つなげる言葉や矢印の確認

情報と情報との関係を分かりやすくするために、図式の中で矢印を使うようにした。矢印を使うことで、原因と結果などの情報の流れが分かりやすくなり、意見文を書く時の助けになると考えた。授業では、半数以上の児童が矢印を活用して構成メモを作成していた。矢印を使っていた児童の中には、情報同士が上手く繋がっていないことに気づき、修正しようとする児童もいた。

また、「もし」「たとえば」「しかし」「加えて」な



どの接続語についても確認をした。図式に書き加えることで、話の順序や情報の繋がりが明確になり、筋道だった構成メモを作ることができると考えたからである。しかし、構成メモを書く際、図式に接続語を取り入れている児童は少数だった。児童の様子から、図式に接続語を書きこむということは、図式化の中でもより高度なことであり、児童にとっては難易度が高かったのではないだろうか。

一方で、図式化の後にいったペア同士の伝え合いでは、メモに書いていない接続語を使って話をする児童が多くいた。この結果から、伝え合いの後に接続語を書き加える時間を設定した方が、児童にとって取り組みやすいのではないかと考える。

情報同士の関係を理解することは、国語の授業に限らずどの教科でも必要になってくる力である。そのため、普段の授業の中で教師が意識して指導することが必要だと考える。

